

一筆啓上  
作左通信



第五十一号 平成二十三年五月十日

# 総会・座談会・懇親会

一筆啓上・作左の会総会が、去る四月十六日（土）西部学区市民ホームで五十名の出席者を迎えて開催されました。

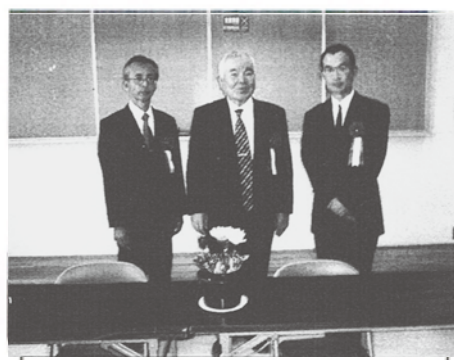
役員改選では、会長は引き続き市川崇氏が務めることになり、副会長は宮地町西総代蜂須賀長治氏が推薦・承認されました。来賓の西部小校長小倉敏幸様、六ッ美商工会長市川文勇様から祝辞をいただき、総会は終了しました。

続いて、西部小初代校長

渡辺勝英先生、西部小現校長小倉敏幸先生と西部小元教諭・現美合小船越先生の三人にご登場いただき、中之郷町の山田靖様司会のもとに「西部小の創立の頃を振り返って」とする座談会が持たれました。

司会者から、西部小開校までの経緯について説明の後、どんな学校にしようと思われたか、の質問に、渡辺先生は「子どもたちが

生き生きとした学校、子どもたちがどんどん勉強したいと思うような学校、そして地域の人から助けてやろうと思われるような学校を作りたいと思った。」と当事のことを思い浮かべながら力強く語られた。



左から、講師の小倉先生、渡辺先生、船越先生

開校当事の苦労話として、船越先生から「スポーツテストの五十M走をやるのに、矢作川へ連れて行ってやりました。とにかく運動場がなくて、できるの

が待ち遠しかった。」、また、渡辺先生からも「第一回卒業生が卒業する時に、何とか校歌、校旗を決めたいと思った。そこで作詞は大磯先生に、作曲は六ッ美北の校歌を作曲された小林先生にお願いした。それが三月十二日にやっと出来た。そこでまず職員が練習し、合唱した。そして、職員合唱で子どもたちに披露した。本当に苦労したが、後から考えるとこの職員合唱がとても良かった。」と語られた。

小倉校長先生からは、渡辺先生の後を継承して学校づくりに取り組んでいくとの話がありました。最後に、懇親会では会員同士の親睦が深まり、良い交流の機会となりました。